

首都圏でも火災

福島双葉が転校球友 埼玉で再会

開会式で120日ぶり準決で対戦誓う



開会式で久々の再会を果たし、笑顔で握手する川越西・鎌田(右)と浦和東・猪狩

甲子園の道
2011

第100回全国高校野球選手権大会(8月6日から15日、甲子園)の地方大会は9日、26大会で閉幕(西東京大会は試合なし)。すでに開催している沖縄、鹿児島を含む27大会で7試合が行われた。首都圏圏内も閉幕し、埼玉大会の開会式では東日本大震災による原発事故の影響で、故郷を離れて甲子園の対戦を果たすと笑顔で握手を交わした。猪狩は「まさか先輩がいると思わなかったのでヒックリです」と驚きを隠さない様子だ。

あす11日で東日本大震災から4カ月。福島から遠く離れた埼玉大会開会式でうれし再会があった。鎌田と猪狩は双葉の先離れ離れ。120日ぶりの対戦を果たすと笑顔で握手を交わした。猪狩は「まさか先輩がいると思わなかったのでヒックリです」と驚きを隠さない様子だ。

双葉は過去3度の甲子園出場を誇る名門校。震災発生時は福島第1原発から20kmの警戒区域内にある同校グラウンドで練習中だった。震災後、部員は27人から13人に減った。名門復活のために地元に残ることを決めた岩田主将から2人の元選手に呼びかけ、元選手として4人も任される。ともに12日が初戦。川越西は東北北陸の強者と対戦。勝ち上がれば準決勝で激突することになるが、元選手もムムムでも今はライバル。鎌田が「負けられない」と宣言は、猪狩も「先輩だけと勝ちます」と応じた。

13日には福島大会が開幕する。「初戦突破を報告して双葉の仲間を勢いづけたい」と2人は口をそろえた。目標は同じ。「地元を勇気づけたい。そして甲子園で双葉の仲間と再会する」。故郷への思いを込めた戦いが始まる。(重光 晋太郎)

▼双葉選手個人(左から)猪狩、鎌田、岩田

双葉(福島)から転校した川越西の鎌田尚幸選手(3年)と浦和東の猪狩博樹選手(2年)が感動の再会を果たし、健闘を誓い合った。きょう10日は神奈川大会が開幕。26大会で33試合が行われる。